

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2012年4月1日

103号



**神様の祝福の地、レダ
(ノアの洪水後の虹のように)**

午後のひと時、雨が上がり陽が差し始めると、東の空に大きな虹がきれいに半円をなして輝きました。神の壮大な創造の技に改めて感動する瞬間です。昨年は数カ月にわたる洪水があっただけに、ノアの時を思わず思い出します。今や水の下にあった大地は、豊かな緑に覆われ、万物は新しい生命の誕生を至る所で見ますし、そののどかな姿は私たちの心を癒してくれます。正に天国が現実に感じられます。

日陽園は聖なる地、神の栄光の地です。沢山の人々が次々に訪れて来る様になるでしょう。

日本とブラジルからの訪問者

三月六日から八日まで、川崎の浦尾さん親子三名と、
ブラジル在住の平野さん、松浦さんが、ポルト・ム
ルチニョ（ブラジル）からボートでレダを訪れま
した。6日は、佐野さんがレダ紹介のビデオを見せ、
レダの歴史や現状を説明しました。七日は、中田所長が、敷地内の案内をし、養殖場、豚
ランド、農場を見てまわりました。

そして、第六の池の魚を網で取り出す作業を見学し
て、元気のよいパクーの姿に触れていただきました。
その後、乗馬を浦尾さんの息子さん、奥さん、松浦
さんが楽しみました。息子さんは初めての体験でし
たが、すぐに遠乗りいでかけました。奥さんと、松
浦さんは経験があり、久しぶりの乗馬を楽しんでお
られました。午後からはボートで釣りに出かけ、平野さんにはド
ラドがかかりました。その他の人たちもピラニアを
たくさん釣つて満足しておられました。浦尾さんは、色々な情報に詳しく、興味深い話をた
くさん聞かせていました。

松浦さんは、ジャルジンの学校の学生二五名に奨学
金を提供し、地域の復興にも力を注いでいます。
平野さんも、ブラジル、ジャルジンの環境整備のた
め忍耐強く頑張つております。（伊達氏より）



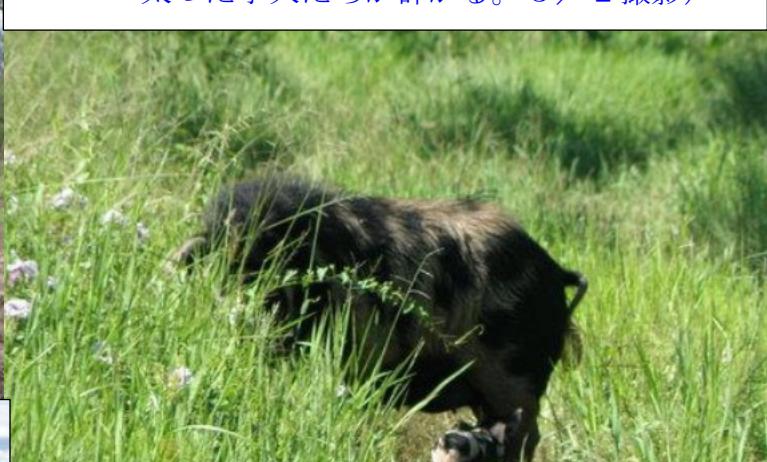
ヤギのメエメエも大きくなってきたが、今でも
人に懷いて甘えて来る。（奥地レトロにて）



ハナ子と7匹の子供達（乳を求めて小さな母親に
コロコロ太った子犬たちが群がる。3／2撮影）



第二豚ランド建設現場



中には自立して上の豚のように8匹の子豚を連れて野生化しつつある豚もいる。
この豚は100kg近く、まるで熊が出て来たかと思わせる迫力があった。3月初めに格闘の末、
捕獲された。



蓮の花

牧畜の報告（佐野報告）

今季は川の水位が例年よりはるかに上昇。そこで川沿いでの牧畜をあきらめ、フェリックスが六月上旬に、レダから十数キロ離れた奥地のフィルメと呼ばれる五百haほどの自然牧草地へ牛を移動しました。そこは昨年上山さんが針金を張つて囲いを完成してくれた所でした。前のオーナーがタハマールを作つてくれていたので水の確保も問題なく、そこにキャンプを張り、放牧しました。問題はジャガードで、それ故、毎日夜には牛を人間のキャンプ地まで集めて保護したそうです。

七月初め私がレダに帰りましたが、十五日からパラグアイの口蹄疫の予防接種期間ということで、そこに牛に注射をする施設を早急に作らなければなりませんでした。そこで業者を連れてきて緊急に（二週間で）施設を作り、SENACSA（国の、牛の管理機関）の職員が来るまでに何とか間に合わせました。

水に囲まれているレダ基地から奥地に行くには、車は使えません。カヌーで行けるところまで行つて、それから馬で行くしかありませんでした。しかしどうしても奥地開拓にはトラクターやトラックが必要なので、パブロ氏がドラム缶をつけた、いかだ、で作業車を向こう側に渡すことを提案。（水のある地域では実際行われていること）現在は乾季なので、一旦水のないところに渡れば後は問題ないです。

そして工夫に工夫を重ねて三日ほどでそのドラム缶を十五個付けた、いかだ、を完成させ、トラクターを渡すことに挑戦しました。労働者を全員動員し二トン以上もあるトラクターをいかだに乗せたまではよかつたのですが、水かさが浅くドラム缶が地に着いてしまいました。それを引っ張り出すために人力で

押したりして、最後には馬で引っ張つて、ようやく、より深いところまで引っ張り出しました。

その後も、いかだ、が不安定で左右に揺れるため、労働者が腰まで水につかって押してきました。しかし一キロ近い距離がある上に、途中に浅いところがあつたりして困難を極め、最後には向こう岸から隣人のトラックに引っ張ってもらつて、二日がかりでようやく渡すことになりました。その後、私のトラック、トラクターに付ける草刈り機、トレーラーも渡し、今は現地でフル回転で仕事をしています。トラックでキャンプ地まで行く道も作りました。

現在は、さらに五百キロ行ったところに七百ヘクタールほどのハラクエと呼ばれる自然牧草地があり、そこに牛を移動しました。そこも以前のオーナーが牛を飼っていた所で水を貯めるタハマールがあり、アランブレ（柵）で囲われています。そこで現在三人の請負業者を入れてアランブレの修理をしています。

またさらに数キロ行つたところにもっと広いポートレリトと呼ばれる牧草地が広がっています。そこも以前のオーナーが使つていた所でタハマールも作られてあります。レダの奥地には無限の可能性があるようです。現在そこにも業者を入れてアランブレを張るように手配しています。

一、ハラクエにおけるアランブレの囲いの完成（一一一ヶ月程度）

二、ボートレリトにおける

アランブレ囲いの完成（二二三ヶ月）

三、フィルメを含めてすべての

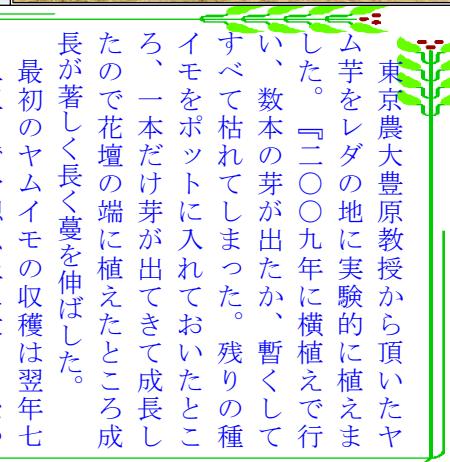
牧草地における水飲み場の整備

四、各牧草地における牧童小屋の建設

五、水につからない道路の建設
(レダからハラクエまで十数キロ)

六、人工牧草地の開墾





東京農大豊原教授から頂いたヤム芋をレダの地に実験的に植えました。『二〇〇九年に横植えで行い、数本の芽が出たか、暫くしてすべて枯れてしまった。残りの種イモをポットに入れておいたところ、一本だけ芽が出てきて成長したので花壇の端に植えたところ成長が著しく長く蔓を伸ばしました。

最初のヤムイモの収穫は翌年七月二三日で予想以上に大きくなっていた。十キロほど取れたので、それを種イモとして十七個ほど、五十cmの深さに掘って腐葉土をいれた畑に植えた。寒気の為、九月後半に入つて芽が出てきて成長し始めた。柱を立てて蔓を伸ばしやすくなったので、どんどん上に成長した。（伊達氏報告）

『豊原副学長はこのイモを宮古に普及させて菓子やパン、麺類などの特産品に加工する地域附加価値向上型の産業創出を描いている。宮古島農場では、世界中から集めたヤムイモの八〇品種を試験栽培している。新品種は品種間の交配やエックス線照射などをして育てたイモの中から選抜したという。

イモの形は塊状で、機械収穫に向く。十ヶ月当たりの生産量は、五トンを目指す。一個の重さは一一二キロ。三月に植え付けて、十一月ごろから収穫する。生活習慣病の防止に有効とされるポリフェノールやアミノ酸、ミネラルなどの含有率が高い。宮古島での研究は二〇〇四年から進めている。ヤムイモを普及したい作物に選んだ理由には①昔からなじみがある②台風に耐えられるなども挙げた。』

一〇一一年八月の新聞より

**南北米福地開発協会
会員募集中**

地球家族として
自然を守りましょう

南米、パラグアイ、パントナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会員は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局
〒二一三一〇〇一
神奈川県川崎市高津区溝口三一十一一十五

電話 F a x 〇四四一八二九一一八二二一
会費納入 郵便口座 岩崎ビル四F
一〇一八〇一七七六八〇四七一
Eメール office@asd-nsa.jp
代表 柴沼邦彦

ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>